

## 農林大学校花きコースのプロジェクト学習での取り組み

### ～新規バラ品種を導入しよう～

和歌山県農林大学校 花きコース

#### 1. はじめに

本校の「プロジェクト学習」では、園芸学科の各コースやアグリビジネス学科の学生がそれぞれチームとなり、2年間で1つの課題に取り組んでいます。

令和元年度卒業の花きコースの学生は、バラを用いた学習を行いました。本校で栽培しているバラ品種は‘ローテローゼ’、‘ティネケ’、‘サフィーア’、‘ゴールデンエンブレム’と、作出されてから長い年月が経っている品種ばかりです。

このことから、直売所で切り花として販売するバラの新規品種を導入するため、作出年が比較的新しい品種の

中から8品種を選び、切り花品質と日持ち性を検討しました。

#### 2. 切り花品質

植栽2年目の供試品種8品種と、対照の2品種を用いました(表1)。

2019年7月1日～2020年1月7日まで調査したところ、1株当たりの切り花本数は、‘ヘンリーフォンダ’、‘レオニダス’が対照品種より少なくなりました。その他の品種については、対照品種よりも多い、または同等でした(図1)。

表1 供試品種

	品種名	色
供試品種	パローレ	ピンク
	イブ ピアッチェ	ピンク
	エル	ピンク
	ヘンリーフォンダ	黄
	ブルーパーフェウム	紫
	レオニダス	赤茶
	ホワイクリスマス	白
	オクラホマ	赤
対照	ローテローゼ	赤
	ティネケ	白

株間10cm、1条植え。整枝はアーチング方式。  
養液管理は愛知農試バラ処方。

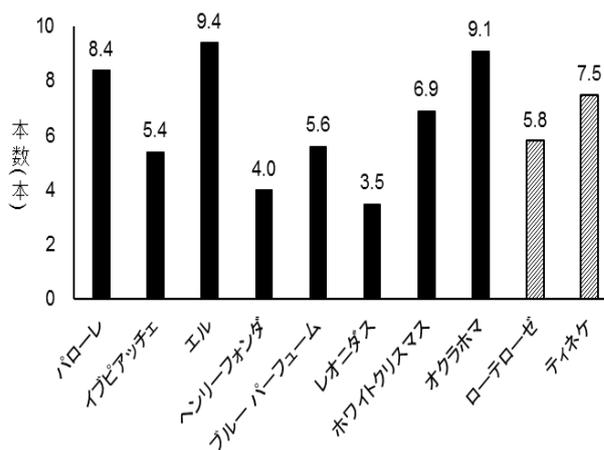


図1 1株当たりの切花本数

70cm以上(2L)の切り花の割合は、‘ブルーパーフェウム’が対照品種よりもかなり低くなりました。その他

の品種については、対照品種と同等、またはやや低くなりました（図2）。

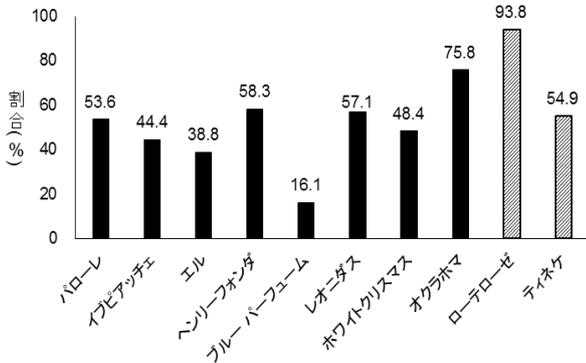


図2 70cm以上の切り花の割合

### 3. 日持ち性

試験は、各品種の切花長を50cmに調整し、茎下部20cmに着生した葉を除去したものを用いました。日持ち性の調査は気温25℃、蛍光灯による1,000Lxの24時間連続照明下で実施し、湿度はなりゆきとしました。生け水は、水道水1Lに鮮度保持剤（クリザールジャパン クリザールバラ 500倍）を加えました。ベントネックや花弁の萎れが起こった時点までを日持ちとしました。

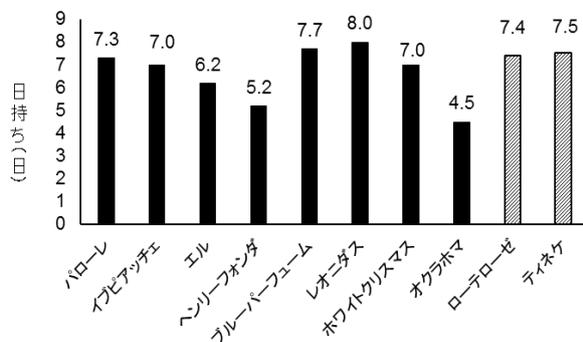


図3 日持ち性

その結果、‘ヘンリーフォンダ’と‘オクラホマ’の日持ちが対照よりも短くなりました（図3）。特に‘オクラホマ’はベントネックが起こりやすかったです。その他の品種は対照品種と同等の日持ちでした

### 4. おわりに

ここまでの結果に加え、経済性を検討するため、図1、2をもとに10aあたりの所得を算出したところ（データ省略）、‘パローレ’と‘エル’の2品種が新規導入品種として有望であると考えられました。

バラは、栽培されている品種数が極めて多く、生産現場では品種の変遷が早いのが特徴です。切り花用バラは定植後5～7年間栽培を続けるため、品種導入が経営を大きく左右し、新たな品種を導入する際は特性を見極める必要があります。このことから、今後も調査を続け、新規品種を導入したいと考えています。